

■ 複雑な漢字ほど覚え易い

意外に思われるでせうが、漢字は字形が複雑なものほど覚え易く、覚えたら忘れ難いものなのです。それは記憶の手掛りが多いからです。人の顔だって、複雑な顔の人ほどよく記憶に残ってゐるではありませんか。だから、“書く”ことを教へない、幼児期の漢字教育は、“蟻”とか“鳩”とかという、字形の複雑な漢字を選んで教へてやると、直に覚えてくれます。

また、内容の面から言ひますと、具体的なイメージが直に頭に浮ぶやうな漢字が覚え易いのです。先の“蟻”や“鳩”といふ漢字は、その意味でも覚え易い漢字だといふ事が出来ます。

これに反して、字形が単純で、内容が抽象的な漢字ですと、覚え易さうで実は覚え難いものです。例へば、“七”とか“八”とかといふ漢字は、直に覚えられさうに思はれますが、幼児はなかなか覚えてくれません。かういふ漢字には、イメージ作りが出来ない上にその内容と字形とを結び着けるものが全く無いからです。

さういふ訳で、全く内容を有たない、抽象的な音声しか表してゐないカナは、幼児に取って最も難しい文字なのです。こんな事は、幼児に実験してみれば直に判る事ですが、「漢字は難しいもの」「かなは易しい文字」といふ先入感、それも強い固定観念があるものですから、事実気が付かないのです。

例へば、脳障害児や精薄児ですと、ひらがなはなかなか覚えられなくても、漢字なら容易に覚えられます。私は、昭和49年から5年間、脳障害の少女の漢字教育に関して来ましたが、その少女は1年かかって、毎日1字ずつ、確実に覚える事が出来ました。5年経った時には、私に手紙を書いてくれるまでになりました。

この事については、グリーン・アロー出版社から昭和55年10月に刊行しました『親こそ最良の教師』に精しく述べてゐますので、関心がお有りの方はそれをお読み下さい。

さて、脳障害の幼児でも漢字は覚えられます。漢字を覚えてこれを読むといふ事は、頭を正しく良く使ふ事ですから、必ず頭の働きが良くなって行きます。人間の体は、頭は勿論、手でも脚でも、使へば使ふほど発達するやうに出来てゐます。また、人間は、頭でも手でも脚でも使ひたくてたまらないやうに作られてゐます。

脳障害の子供でも同じです。ただ、能力が低い為に、能力を越えた使ひ方は出来ないし、またやりたがりません。然し、能力に見合った学習は喜んでやりますし、また、やりたがってゐます。さういふ事をする時には、目を輝かしてやります。

その事は、ひらがなの学習では目が死んだやうになりますが、漢字の学習では目がきらきらと輝き出すことでよく解ります。